

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590300018		
法人名	社会福祉法人 相和会		
事業所名	ピハール横手 グループホームぬくもり(西ユニット)		
所在地	横手市上境字谷地中136番地		
自己評価作成日	平成26年10月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成26年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○施設内で家のようにくつろいで頂くだけでなく、外出など定期的に計画し気分転換を図っている。</p> <p>○家庭にいた頃にやっていた仕事(裁縫や野菜の皮むきなど)もやって頂き、昔の記憶に触れる機会を大切にしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の側には小学校、デイサービスセンター、JA支所があるが、事業所の正面は田畑が広がり、住宅は比較的少ない地域である。また、事業所は小規模多機能型事業所と2ユニットのグループホームを併設しており、互いに協力し合い事業に取り組んでいる。管理者と職員は事業所の理念を把握しており、理念を利用者支援の実践に繋げるよう努めている。また、職員間の意見交換がなされ、業務の調整や改善に繋がっている。今後は、災害時や非常時に地域の協力が得られるよう、地域との関係作りに取り組んでいただきたい。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに理念のスローガンを掲げており、目の付く場所にあるので、いつでも理念を共有できているが業務体制が変わってからは唱和をする時間がなく、行っていない。	利用者の介護状況に合わせた理念を掲げ、穏やかな生活を送れるように管理者及び職員は、その理念を共有し、日常生活の中で笑顔や気遣いを示し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的ではないが調理ボランティア、アニマルセラピー、保育園児達と共同の芋掘り等があり、地域交流の一環となっている。	月2回、地域の6つの婦人会が持ち回りで調理ボランティアを行っている他、アニマルセラピーの慰問を受け入れ、地域行事への参加等、交流を行っている。今後は、町内会との関わりを深めることに期待する。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	年2回の広報の発行で情報発信をしており長くボランティアとして来ていただいている方達には認知症への理解が少しずつ深まっているのではと考えるが、地域貢献しているとは言えないと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議に利用者も参加し施設長・管理者の報告、代表職員の現状報告、看護師からの報告等を行い話し合いし、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議を定期的開催している。行政や利用者代表、地域の代表等が出席し、利用者の状況や運営、行事等の報告を行っている。また要望や意見を聞く機会とし、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の行政担当の方に運営推進会議に参加して頂く等してケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	行政には運営推進会議への参加を求めている他、月2回、市の介護相談員を活用し、夜間に利用者との面談や相談を行う等、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会で定期的に施設内研修を開催し学んでいる。身体拘束を廃止し、利用者様に安全・安心にお過ごし頂けるようユニット会議等で皆で話し合いし検討しているが良い工夫がまだ見つかっていない。(西利用者1名、時間を制限し行っている。)	委員会や施設内研修を通じ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。止むを得ず時間を限定して拘束を行わなければならない方が1名いるが、本人や家族の理解を得ている。また、定期的に改善に向けての工夫について検討会を行っている。引き続き身体拘束をしないケアの実践に努めることに期待する。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会で定期的に虐待について学ぶ機会を設けている他、日々利用者様の身体や生活の様子観察にも努め虐待のサインがないか注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要な関係者との話し合いや成年後見制度の利用されている方がいらっしゃる、管理者が対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約、解約を行っており十分な説明を行い理解・納得を得ている。職員も必要に応じて不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行なうよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた際やモニタリング時、家族交流会時等で意見や要望を聞いたり事務所前に目安箱を設置し運営に反映させている。	開設時から家族会を設け、意見や要望を聞く機会としている。また、運営推進会議や面会時、モニタリング時、個別支援計画作成時等を活用し、意見の聴取に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や職員会議等で意見や提案を出し合い、聴く機会を設け反映させている。	月1回の職員会議やユニット会議で行事の計画や反省点を話し合っている他、年度末には振り返りと次年度に向けて、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、ユニットで解決できるものはユニット会議で意見を反映できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境の整備に努めているとは思いますが特に実感はなく、6月から勤務体制が変わった事もあり、勤務的につらい所もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会の確保が出来ており、働きながら個々のレベルアップに繋がっていると思う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等で他事業所の意見や情報に触れる機会をつくり、サービスの質の向上に努めていると思う。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期に本人の要望等に耳を傾けながら、新たな環境になじんでいけるよう、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様等からのご要望・不安に耳を傾け、安心して利用者様が生活していく為に必要な事を話し合い、共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が出来ることを一緒に行い(洗濯物たたみやお盆準備等)生活の中で自分なりの役割を持つ事で共に暮らしている感覚を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	意向をお伺いする際「全てお任せします」と仰るご家族様もおりますが、少しでも利用者様の事について一緒に考えていきたいという思いを持ってお話しをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会もあるので、本人の今の状態をお伝えする事で互いの交流を円滑にして気軽に会いに来て頂けるような関係作りを努めている。	自宅訪問や馴染みの美理容室の活用等の支援に努め、入居前からの馴染みの人や場所との関係継続に努めている。	平均年齢87.3歳、要介護度4～5の方が9名おられることから、馴染みの人や場との関係継続の支援を行うと共に、利用者一人ひとりの関係性を把握し、新しい馴染みの関係を作る視点を持ってもらいたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関わり合いは薄いように感じられるが、一人ひとりが孤立せず支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は、その家族との交流等はほとんどなくなってしまうと感じる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望・意向の把握に努め、困難な場合はご家族様のお話を伺ったりしながら本人本位に検討し、その人らしい暮らし方が出来るよう努めている。	職員は、日常のさりげない会話から本人の思いや希望の把握に努めると共に、家族の面会時やモニタリング時に本人が望む暮らしができるように情報を収集している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にそれぞれの生活歴を聞き、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントやモニタリングを行い、一人ひとりの1日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議でそれぞれ意見やアイデアを出し介護計画を作成したり、家族様からの要望を毎回確認してアセスメント・モニタリングを行っている。	介護計画の作成は、利用者本人や家族からの要望・意見を聞き、ユニット会議を通じて、現場職員の意見や気づきを勘案し、本人が穏やかに生活できるよう作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子をケースに記録し情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	アニマルセラピーや婦人会の方々の調理ボランティア等がある。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族様の希望を大切にし、適切な医療を受けられるように受診介助している。	利用者個々のかかりつけ医に受診している。また、嘱託医との連携を密にし、服薬等は薬の重複等の管理のため、同じ薬局に依頼して適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の状態変化に気づくよう努め変化があれば、迅速に看護師に報告し、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者、看護師を中心に情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前に家族様との話し合いを行い、終末期のあり方について方針を共有している。	本人と家族の意向、嘱託医や職員との連携協力についての話し合いを行い、チームで支援に取り組んでいる。また、看取り等の指針が整備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修・勉強会に参加したり、マニュアルを見たりしているが不安が残る。定期的に行う事で不安を取り除いて行く。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っており、災害時に要介護者の受け入れ協定を市と結んでいる。	年2回、避難訓練を実施している。非常食等、非常時の備品は、隣接する法人本部に備えており、災害時は相互に協力できる体制ができています。また、災害時に要介護者の受け入れについて、市と協定を結ぶ等、協力体制を築いている。	災害時は、隣接する同法人の施設も同じように避難が必要となるため、地域住民の協力が必要不可欠である。今後更に地域との協力体制作りへの取り組みに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しプライバシーを損ねない言葉掛けや対応をするよう努めているつもりだが、余裕のない時はきつい言葉使いになってしまう事がある為、気をつけたい。	利用者が穏やかな生活を送れるよう、管理者と職員は、日常の会話や食事の時の支援時、言葉遣いに気を付け、笑顔で対応するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意思を伝えられる利用者は少ないが少しでも希望が叶うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどのように過ごしたいか希望を仰る利用者様はおられないが、一人ひとりのペースを大切にするよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	定期的に床屋に行って散髪している。自分で洋服を選んだり、頭髪を整えたりしている利用者様はいるが、ほとんどの利用者様は職員がその人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お絞り準備、箸配り、お盆拭き、積極的にして下さる利用者様や、こちらからお願いすると一生懸命行って下さる利用者様もいる。又、盛り付けに工夫する等し、食事が楽しみとなるよう努めている。	利用者の好みをさりげなく聞き取り、献立を提供している。特に、目で見て楽しむことができるよう盛り付けを工夫している。また、舌で楽しむことができるよう、調理や味付けは職員間で互いに工夫し合い、食事を楽しむための支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態や食事量等一人ひとりに合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、個々の力に応じて全介助・一部介助等に対応して清潔を保てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し定時のトイレ誘導の声掛けを行う事でなるべく失敗のないよう努めている。	排泄チェック表で利用者個々の排泄パターンを把握し、他の利用者に気づかれないよう、さりげない声掛けを行い尊厳を大切にされた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の利用者様には主治医に相談し下剤が処方されている。又、1日最低1回は乳製品を提供している。毎日の軽体操や棟内散歩等で身体動かして頂く事で予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	それぞれの身体状況に合わせた入浴方法で対応している。曜日や時間は決めているが、週2回の希望浴日や利用者様の体調に合わせて入浴日の変更等を行っている。	特浴は週2回午前中、一般浴は午後を実施している。高齢や要介護度の高い利用者が多くなり、特浴の使用が多くなってきている。利用者個々の身体状況や健康状態に合わせて、入浴を楽しめるよう時間帯や入浴日について柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて日中お部屋で休息したり、夜しばらくホールで過ごされてから休まれる方もいる。安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬に付いて個々に記録があるのでそれを確認し覚えられるよう努めている。内服変更時は看護師から情報をもらって確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや読書、歌等、利用者様の好みを把握して張り合いや楽しみにつなげられるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	その日の希望に急に対応することは職員の人数上難しいが、前もっての外出計画や買い出しへ一緒に行く等、出来る限り希望に沿えるよう支援を行っている。	利用者が希望する外出に対応するため、買い出し時や本人の通院時等を活用し、できるだけ要望に応えることができるように努めている。普段は出掛けられないような場所には、行事予定で外出を計画し実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は数千円程を管理して頂いているが、ほとんどの方は自己管理が難しく、施設管理としている。購入したい物があれば職員が代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話でのやりとりを希望される方はいないが、かかって来たら取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用様が居心地良く過ごせるよう日々掃除を行い清潔を保てるよう努めている。季節を感じられるよう装飾も工夫するよう努めている。	事業所全体の天井は高く、採光が良く明るい。加湿器が天井近くに取り付けられており、冬期間の暖房による乾燥に配慮されている。また、廊下は回廊式で他のユニットと交流可能であり、互いに知り合うことができる。各ユニットには畳の部屋があり、居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	共同空間で一人になれる場所はない。食席で思い思いに過ごすか、居室でゆっくり過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時や面会時に家族写真等、好みの物・馴染みの物を持参してもらい居室のいつでもみられるところに置いており、居心地良く過ごして頂いている。	居室のレイアウトは、本人や家族の好みに応じて使い慣れた物や好みの物を使いやすいように置いている。利用者一人ひとりの居室内の配置が違い、本人が居心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアに名前を貼ったり、浴槽前にはのれんを掛ける等、分かりやすく目印を付ける配慮を行っている。		